



令和5年
(2023年)

3

そうごう 総合センターだより

かわにし そうごう かわにしりんぼかん かわにしじどうかん
川西市総合センター(川西隣保館・川西児童館)

かわにし ひだかちょう ばん ごう
川西市日高町1番2号 ☎072(758)8398 Fax 072(758)2132

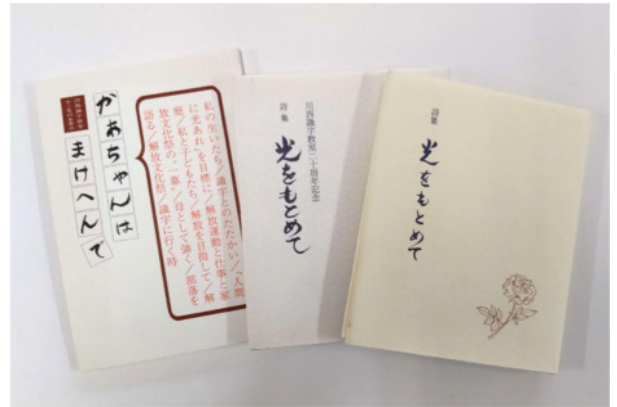


うば もじ にんげんせい と もど
奪われた文字と人間性を取り戻し、

ぶらくさべつ しきじきょうしつ
部落差別をなくすための識字教室

じだい か せいしん ひ つ
時代は変わるもその精神は引き継がれる

ぶらくかいほうどうめいかわにしし ぶ ふじん ぶ みな しきじきょうしつ まな
部落解放同盟川西支部婦人部の皆さんが識字教室で学び
つづ さくぶん し はっかん ししゅう としよ
綴ってきた作文や詩などをまとめ発刊された詩集や図書



うば もじ と もど かつどう にんげん ほこ じんけん と もど
奪われた文字を取り戻す活動は人間としての誇りや人権を取り戻すこと

「識字」という言葉を聞かれたことがありますか。「識字」とは文字の読み書きができることです。

日本では識字率が99.8%といわれていますが、現実には、「識字教室」「よみかき教室」等の文字の読み書きなどを学ぶ教室や夜間中学校が現在も行われています。

部落差別や教育差別のために文字を学ぶ機会を奪われた人たちが、「識字教室」で読み書きを学び、生活を守り差別をなくすための運動を広げていきました。奪われた文字を取り戻す活動は、読み書きの文字を取り戻すだけでなく、奪われた人間としての誇りや人権を取り戻すことでもあります。

かわりゆく時代の中でも引き継がれる学ぶことの喜びや人としての成長

川西市でも1978年に「識字教室が開かれ、1980年に総合センターが開設されてから現在に至るまで、教室で学ぶ人が絶えません。2002年に「よみかき教室」に名前が変わっていきましたが、識字教室は決して「消えゆくもの」ではなく、変わりゆく時代状況の中で、新たな役割を果たそうとしています。

今、よみかき教室では外国からの居住者が一緒に学んでいます。これは「識字教室」の多様化が進んでいるといえます。「識字教室」の学習者は、文字や言葉を学ぶだけではなく、自らを見つめ直すとともに、学ぶことの喜びを感じ、人として成長していきます。これは、今も「よみかき教室」へと大事に引き継がれています。

総合センターだよりは、読みやすいフォント「UD(ユニバーサルデザイン)デジタル教科書体」を使用しています。